



# 茶白山公園

「茶白山公園」を美しく彩るつつじは昭和四十一年、大鷲中学校の生徒が入学記念につつじを植樹したことに始まります。その後、毎年植樹が続けられ、今では四十数種、総数約一万五千本以上のを数えるつつじの名所となっています。また茶白山公園には、三百種類を超える植物が生息しており、わずか三十分足らずでこれらの品種を観察できます。



お問い合わせは 大鷲町役場企画観光課 ☎0172-48-2111代

# 俳句の小径



- 74 津軽にも夏来たりけり花らん 増田 春洋 青巻
- 73 春山にも夏来たりけり花らん 増田 善昭 千巻
- 72 茶臼山登りて白雲からん 大塚 千代 弘前
- 71 白鳥を眼も追ひよ心にて 佐藤 一村 弘前
- 70 こもたまたま目醒ましめ時どろ 戸つね 弘前
- 69 山藪と津軽が好きでひとり住む 深堀 祥子 青巻
- 68 津軽の雲の高きや林の空 下山 あり 弘前
- 67 ささやかとりんの花の匂ふ庭 井筒 まつ 平賀
- 66 ささやかとりんの花の匂ふ庭 井筒 まつ 平賀
- 65 はのぼりの夕べに白し花らん 藤田 豊子 弘前
- 64 炎天に神の牛曳く井筒祭 栗林若 門 平賀
- 63 大空に岩木羅ありて暮時けり 小田 桐樹 弘前
- 62 山歌のほろろ〜こぼる歌集 山本 七 天麩
- 61 高嶺に去と想ふて秋深し 魂本 はつ 天麩

- 1 元日や心定る日の多かれと 高浜 虚子 鎌倉
- 2 大いなる海舟に一人初海かな 長内ミキ女 大鵬
- 3 ネアタ奔く子に涙ひ夜も煩悩 小山内昭女 大鵬
- 4 風花の水の鹿かくれにたたりぬ 安田たかし 弘前
- 5 福草まばゆきまで金色に 菊池 悠史 大鵬
- 6 やはらかきやはらかき日花びら 嶋山 晴月 大鵬
- 7 天の川十相田の瀬にかりたる 虎谷 晴月 大鵬
- 8 津軽不音手正して秋助る 黒沼 草生 弘前
- 9 昇れてなほ離たよへる 瀬の花 三浦 文彦 弘前
- 9 海町の町を見おろし行る花野かな 〃 車子 〃
- 10 赤の実をみまわれば雲雨れゆく 工藤 京子 弘前
- 11 赤き雲はまららし立ち止る 花田 道子 弘前
- 12 わけ入るや都那の鳴くこ 福士 久夫 弘前
- 12 草履つて時行のみらつてあり 〃 あき女 〃
- 13 秋天にリフトの人ら散はれゆく 三上きくを 弘前
- 14 少年に五月の風と恋とを 長内 淑季 大鵬
- 14 フラフコの時々居ゆる新舞かな 〃 幸子 〃
- 15 よく遊ぶ山家の子らに驚けり 佐藤 静良 弘前
- 15 赤豆の裏おちて鳴きあふり 津谷 鉄蔵 弘前
- 17 花らんこ 藤屋さしありけり 秋田 春月 大鵬
- 18 向きかへて流る 鷹の尾かな 後藤 信子 大鵬
- 19 雪覆の大群鳥の習しよ 吉田 紅一 弘前
- 20 暮秋ふ花一花に夢を待む 長谷川 神八 弘前
- 21 美しき豆山にして雨ぞよく 神 九六 弘前
- 21 高翠の桐葉へ行くも虫しくれ 〃 照代 〃
- 22 この山に孫公の鳴くやいつまでも 塚本 磯石 大鵬
- 23 高麗の月に句軸を照らしゆく 工藤 尚義 弘前
- 24 山の湯や夏寒が来る風が来る 盛 咲子 弘前
- 25 雲霧より刈田に日射美し 〃 〃
- 26 夜りとはかく美しきものなるか 増田 千古 大鵬
- 27 美しきつじにひかれ登り来し 増田 勢子 大鵬
- 28 朝もやの群公鳴くこの道を 増田 しみ 大鵬
- 29 仰ぎ見る千太郎の紅葉かな 橋 耳 孫子 大鵬
- 30 新雪の岩木羅はるか林檎も 油川 一石 大鵬
- 31 温泉の窓に山を望みてとる 下 沢 太郎 大鵬
- 32 河津鴨く前に温泉の湯のがぬれ 油川 研子 大鵬
- 33 餅の句碑を誦へばほあり林句ふ 飯田 里庵 大鵬
- 34 白鳥を眺め築く油滴かな 小田 木堂 弘前

俳句十相田の主宰者、増田千古  
 桑全名義男は、明治30年10月3日  
 南洋群島龍巖村現在大鵬町龍巖  
 に生まれ、東京帝国大学医学  
 部、同大学大学院、昭和6年に医  
 学博士となり、大鵬町に帰郷、医院を  
 開業しました。



増田千古  
 (1897-1993)

- 35 車窓より見し秋草の思ふこと 横日本松子 大鵬
- 35 馬道ひに結打つ手をとめぬけり 〃 竹亭 〃
- 35 岩木山はるかに見えてさきはやかに 木田 杜雪 〃
- 35 まるめるの熟みちのくの歌集し 〃 あり 〃
- 36 色鳥の来て美しき日となりぬ 古川 勝正 弘前
- 37 千板の出店ならんや伏まつり 今井 てる 弘前
- 38 みちのくは練入ほし花らん 成田 芳村 大鵬
- 39 春雪を散らして朝の木から木へ 中川みどり 弘前
- 40 もやし場の海潮白し朝朝かり 沢田 きえ 大鵬
- 41 大いなる春の風や鹿子鹿る 外崎 喜代 弘前
- 42 夫とある伴せ共に屏風帳か 佐藤 千代子 大鵬
- 43 この山の匂いすみれの小径かな 飯田 明代 大鵬
- 44 山吹や梅は此見より急な 小田 桐樹 弘前
- 45 村の道子等のつくりしねふた行く 藤田 一星 大鵬
- 46 雑草を吹いて春待つ心は 中村 眞澄 弘前
- 47 風百舌の吹く日月を音も待つ 近藤 賢 青巻
- 48 あちのくに来て仲秋の月を持つ 宇津 信子 大鵬
- 49 漁行の羅敷かに夏の山 三浦 滋風 平賀
- 50 大津野野雨は黄金〜なり 大井 東洋 大鵬
- 51 どの株もかたき香のあやめかな 中野かつ子 大鵬
- 52 黄鵠と赤青まぐさのうに 川村とも子 弘前
- 53 時雨でもはれても山をこり登る 工藤 月里子 弘前
- 54 山崎や八重山吹のなだれ吹き 建部かほる 弘前
- 55 大鵬にきてこの道標かはすと 島山 若水 正
- 56 緑蔭に心引かる、石ありし 工藤 車 王所
- 57 な、かまほ道標あけて水をもてる 小島 富草 弘前
- 58 紅葉道き山ふところの温泉かな 野宮 新緑 弘前
- 59 紅葉山越えて陽立つ時 長内みき子 大鵬
- 60 いかづちの鳴りともせむる響し 長内萬時子 大鵬